令和６年度 第１回 ESD 全国ネットワーク団体意見交換会
議事録

1. 日時：2024 年 7 月 24 日（水）14:00～16：30
2. 会場：ハイブリッド
（ビジョンセンター東京日本橋セミナールーム 301＋オンライン）
3. 参加人数：43 名
4. 参加団体：
一般社団法人 環境パートナーシップ会議、特定非営利活動法人 気候ネットワーク、Climate Youth Japan、公益財団法人 五井平和財団、公益財団法人 国際文化フォーラム、国立研究開発法人 国立環境研究所、国連大学サスティナビリティ高等研究所（UNU-IAS)、特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J)、公益財団法人 消費者教育支援センター、一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット、地球環境パートナーシッププラザ、特定非営利活動法人 日本エコツーリズムセンター、公益財団法人 日本環境協会、特定非営利活動法人 日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム、公益財団法人 日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU)、北海道地方 ESD 活動支援センター、東北地方 ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、中国地方 ESD 活動支援センター、四国地方 ESD 活動支援センター、九州地方 ESD 活動支援センター

5. 議題
5-1 開会挨拶
令和６年度第１回 ESD 全国ネットワーク団体意見交換会の開催にあたり、ESD 活動支援センターセンター長の阿部より挨拶があった。

5-2. ESD に関する最新動向及び質疑応答
奈良教育大学 教育連携講座/ESD・SDG センター　准教授・副センター長　及川氏より、ESD に関する最新動向について説明があった。詳細については別添資料１を参照。その後、質疑応答を行った。質疑応答の内容は下記のとおりである。

- SDGs 達成に資する ESD の教育的価値のところで、ESD の E(＝教育)を重視する視点と、「SD=持続可能な社会の構造」強調する視点の２つの視点からのお話があったが、本日この場に出席している人の多くは比較的「SD」の層の人が多く、「E」の部分は少ないと考えているが、そのあたりについてご意見を伺いたい。(中部地方 ESD 活動支援センター/原氏)
- E の方々の巻き込みが必要。これらの層が入ることによってシナジー効果が生まれ、ESD も ESD FOR 2030 も盛り上がると考えている。例として ASPUnivNet というユネスコのツールを使って、コラボレーションの実現を考えている。お互いの強みを補強しあうようなネットワークの繋がりを模索中である。(奈良教育大学教育連携講座/ESD・SDGs センター/及川氏)
- SDGs の目標４「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に ESD が提案に入ったのは、日本の NGO 等が強く外務省にお願いをした結果である。当初は全文に記載することを提案したが、SDGs の項目に

記載がないと取り組むことは難しいとのことであったので、目標4に記載することとなった。日本の動きがなければESDがSDGsの項目に記載されることはなかったため、そのような背景も頭に入れつつ、活動に取り組む必要性を感じた。(ESD活動支援センター/阿部)

- ポストSDGsもそろそろ出てくるのではないかと考えている。国際情勢も日々変わる中で、次に出てくるテーマは何があると考えているか。(公益財団法人 五井平和財団/鈴木氏)
- ウェルビーイングだと考えている。今後の教育振興基本計画の2つの柱には、持続可能な社会の造り手を育成すること（ESD）とウェルビーイングの2つが掲げられている。それぞれの実現の為には、互いの達成が必要である。平和にするためにはどのような道筋が必要なのかということと、ウェルビーイングに置き換えて、ウェルビーイングにするためにどのようなプロセスが必要なのかということを、明確に道筋を示していくことが大事。その中でESDにとって人材育成は中核にある。(奈良教育大学 教育連携講座／ESD・SDGsセンター/及川氏)
- 最後のスライドにあるESD for 2030実施枠組みの「ESDは大きな変革に照準を定める」という内容に関して、ESD活動支援センターは大きなものを求められていると改めて感じた。これを最後に掲げた意図、またこの文言に関してどのような考えをお持ちなのか教えてほしい。(関東地方ESD活動支援センター/島田氏)
- ESD・SDGsは「通常の」思考様式、行動様式、生活様式から脱却していかないといけない。脱却することは一定レベルの混乱を必然的に引き起こすが、出る杭は打たれるで終わってしまうのか、これが必要である・正しいという思いで続けていくのか、覚悟が求められている。脱却することによって原動力が生まれる。これらの人が活躍できるような社会づくりが大切であり、支える人の価値をたくさん生み出すことがESD活動支援センターの役割でもあると考えている。(奈良教育大学 教育連携講座／ESD・SDGsセンター/及川氏)

5-3. ESD活動支援センターの紹介

ESD活動支援センター副センター長の加藤よりESD活動支援センターの活動について紹介を行った。詳細については別添資料2を参照。

5-4. 全国協力団体及び地方ESD活動支援センターから最新の取組紹介

全国協力団体から最新の取組について、1団体3分程度で紹介があった。発表団体は下記のとおりである。

1. 一般社団法人　環境パートナーシップ会議
2. 特定非営利活動法人　気候ネットワーク
3. Climate Youth Japan
4. 公益財団法人　五井平和財団
5. 公益財団法人　国際文化フォーラム
6. 国立研究開発法人　国立環境研究所
7. 国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）
8. 公益財団法人　消費者教育支援センター
9. 一般社団法人　地球温暖化防止全国ネット
10. 地球環境パートナーシッププラザ

11. 公益財団法人　日本環境協会
12. 公益社団法人　日本ユネスコ協会連盟

また、8 拠点ある地方 ESD 活動支援センターより、1 センター1 分程度で各センターの取組について紹介した。

5-5. ネットワーキング・名刺交換
5-4. 全国協力団体及び地方 ESD 活動支援センターから最新の取組紹介を踏まえて、参加者同士がネットワーキング及び名刺交換する時間を設けた。

以　上